

## COMLひとことインタビュー



ファルメディコ株式会社 代表取締役  
医師 医学博士

はぎま けんじ  
**狭間 研至さん**

10年ほど前、COML創始者の辻本好子さんと講演で一緒しました。「賢い患者になりましょう」というお話がとても印象的でした。これからの新しい医療のあり方は、医療者と患者の協働作業で進めないと実現できないと思っています。

## 2019年12月号の目次

ひとことインタビュー 狭間 研至さん	1
COMLに届いた相談から	2
ここにとまったこんな取り組み 健康食品やサプリメントのデータベースを発行 薬との飲み合わせの危険性を回避するために	4
ハーフ病院探検隊 第98弾!! 医療法人 瑞頌会 尾張温泉かえ病院 (愛知県海部郡蟹江町)	6
ハーフ病院探検隊 第97弾!! 医療法人財団 医親会 OBPクリニック (大阪府大阪市)	8
COMLメッセージ No.104 30周年を目前に模擬患者標準化・認定の大役	10
11月の活動報告①	11
11月の活動報告②・ご案内・センターだより 他	12

# 薬剤師の本来の役割は薬を渡したあとのフォローです。

ハザマ薬局は1976年に母が創業しました。親からの勧めもあり、私は薬剤師ではなく医師の道に進みました。大学病院の外科で順調にキャリアを積んでいたところ医薬分業が導入され、薬が院外処方になりました。患者さんが院外の薬局に対する不安を口にしたことと、実家の薬局の薬剤師が患者の病気に関する質問に的確に答えられない状況を知り、薬剤師への勉強会を定期的を開くようになりました。外科医として移植医療を極めるより、薬剤師がその専門性を発揮し、きちんとした医薬分業が実現されることのほうが社会のためになると感じ、2004年に母の薬局を継承開業し、名前も改めました。

薬剤師が専門性を発揮できるのは、患者に薬を渡したあとのフォローです。服用状況や効果、副作用を見て考え、医師に報告・相談・提案することで、医師も薬剤師も患者も恩恵を受けます。このことは医療費の削減にもつながります。

弊社の薬剤師は学びを重ね実践できるようになりましたが、私の使命は全国の薬局薬剤師が変わることだと思い、各地で講習会や講演会を開いています。ただそれには、薬を渡したあとのフォロー業務に適切な調剤報酬がつくことが不可欠です。来年4月の調剤報酬改定で改善されることを期待しています。

もう一つ私が実現させたいのは、今後の地域医療のモデルを作ることです。私は5年前から私立の中小病院の運営にも携わっていますが、病院の薬局と地域の薬局が連携する薬業連携を含め、この病院を核に真の意味での多職種連携を実現し、今後の地域医療のモデルを創りたいと考えています。医師であり、薬局を経営する自分だからこそできることがあると思っています。

(インタビューー 村上朝子)